

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表： R6年 2月 1日

事業所名 一般社団法人ハンズハンズ 未来育デイ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		状況に応じて部屋を使い分けている。	
	2	職員の配置数は適切である	7		子どもを安全に迎えられるよう分擔することができている。	利用メンバーによっては不足するときもある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	5	階段を使わない方が安全だが、上り下りには職員が付き添うようにしている。	車椅子で玄関まで行けるようにしたい。階段はあっても良いがスロープをつけるなど
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7			パート・アルバイト職員がさらに参画できるようにしていけると良い。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		活動中の映像を個人情報を隠してSNSで発信している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		評価結果を保護者に配布し、ホームページに載せている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	2	理事会や監査等でいただいた意見を参考に業務改善につなげている。	
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		定期的に外部研修に参加し、そこでの学びを内部研修で共有している。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		未来育デイ作成ツールを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		会議の中で立案し、より子どもたちが楽しく、身になる活動ができるよう意見交換をしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		書く、作る、体を動かすetc.の内容が仕組みられていて、子どもがやる気をもって活動している。季節にあわせて活動を考えている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7		個々の発達段階に応じた課題を設定し、支援の手立てを考えている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7		就労に向けて、発達段階に応じた作業の時間を設けている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		事前に活動の流れや分擔を確認している。	子どもたちが成長し、個性を發揮し始めたので見守り、支援を分擔したほうが良い。心の充実を図ってあげることが大切だと思う。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		その日の子どもたちの様子について共有し、振り返りを行っている。意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。	送迎等の関係でできないこともある。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		利用毎の記録に加え、個々の課題に応じた評価を行い、検証・改善につなげている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7		半年に一度、必ずモニタリングを行い計画の見直しを行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	7		ガイドライン総則に則り、支援の5領域を意識した活動を行っている。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		児発管、管理者、常勤の児童指導員が参画している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7		学校での様子を適宜話している。また行事予定や下校表のコピーをいただき共有している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	3	現在受け入れていない。	直接の連絡体制はないが、保護者を通じて連絡を取り合っていきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	2		必要であれば行う。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7			必要であれば行う。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	中核を担うセンター主催の研修に参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	6		デイではあまりないが、学校や家庭、地域でそんな場面があると思うので保護者の方や本人に話を聞いていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	1	こども部会に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		活動記録用紙に記入しきれなかった出来事について、送迎時に詳しくお伝えしたり、必要に応じてLINEや電話で伝えたりしている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7		保護者会、参観を再開し、子どもたちの様子を見ていただいたり、意見交流を行ったりしている。	
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時に必ず説明を行い、同意いただいている。問い合わせがあれば、適宜説明をする。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7			保護者も忙しいが、参観に出席していただき、子どもたちの様子を知ってもらいたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		毎月1回通信を発行し、活動報告や連絡体制、非常時の対応についての情報をお知らせしている。	
	35	個人情報に十分注意している	7		Youtubeで支援の様子を発信しているため、年に一度保護者の方に承諾書をお渡しし、意向を確認している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		1人1人の特性に応じ、口頭指示や視覚支援、身振りなどを取り入れ意思の疎通を図っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている	4	3	ラーメンNageyariさんとの交流があった。	いつもと違う空間、人などが苦手なお子様もあり、すぐには難しいが、理解ある空間から慎重に広げていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	月1回実施することで避難の仕方を反射的に覚えている、上靴を履ける子が多くなった。	さらに、避難時の安全性に繋がることを徹底させていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	毎月虐待防止のチェックリストにて、自身の支援の振り返りを行っている。虐待防止委員会を年2回開催し、学びを深めている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	利用者・保護者に説明し、理解を得ている。やむを得ず身体拘束等を行った際には適切に記録をし、保護者に連絡をしている。適宜、本当にやむを得なかったか振り返りを行う。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	医師の診断に基づいた対応を保護者から聞き取りし、職員会で情報共有がされている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	職員会で紹介することによって安全性の確認と、児童理解にも結び付いている。改善点を考えることができる。	